

幼児の言語発達に関する研究(Ⅰ)

—言語活動における母親の役割—

研究第5部 望月 武子
丸尾 あき子

I 目 的

子どもの世話のし方や子どもの行動に対する応じ方、子どもと接する時間の多少など、日常生活において、何気なく行われている母子間の相互交渉のあり方が、子どもの言語発達に及ぼす影響は大きいものであると考えられている。

このような母子間の相互交渉の様相は、子どもの発達に伴って当然変って来るものであろうし、子どもの傾向が活動的、積極的であるか否か、発達のな問題や健康上の問題の有無などによっても異なるであろう。また、母親の性格や、育児に対する意識や関心の程度によっても差が生じるであろう。

そこで、1) 一般の母親は子どもに対しどのような意識をもち、どのような接し方をしているのか、また、その接し方は子どもの発達とどのような関係があるのか、実態を調べて一般的傾向を捉えようとした。

2) 一方、言語発達の遅れを訴えて相談に来所する事例の中には、子どもの言語活動に対する母親の態度に問題を感じさせるものが少なくない。子どもの言語発達に遅れが生じている場合、母親自身は多忙で子どもの相手をしなかった、話しかけが少なかったなどということに遅れの原因を求めたがる傾向が強い。しかし、子どもに対する母親の態度は子ども自身の発達や活動性と関係が深く、単に親の態度のみが言語発達の遅れの原因であるとはできないように思われる。しかし反面では言語発達の遅れに気がついた母親が、不安とあせりのため、適切でない接し方をして、副次的に問題を大きくしていることも見逃せない。

したがって、言語発達遅滞児に対する母親の接し方を調べ、1)の調査群と比較、検討することによって、言語

発達に対し好ましい態度や働きかけはどのようなものであるか、発達を促進、あるいは阻害する要因は何かなどを考えようとした。

II 方 法

日常生活の中で、子どもに与えられる言語的刺激的の与え方、子どもの発声や話しかけに対する応じ方、交流の場のもち方、言語発達に対する母親の意識などに関する質問項目を検討し、質問紙を作成した。

そして、一方は保健指導部で継続的に指導を受けている1歳から3歳までの幼児の中から、ランダムに200名を抽出し、質問紙を送付して母親に回答を求めた。回答数は140名である。

他方ことばの遅れを訴えて教養相談室を訪れた2歳～4歳の幼児の母親79名に同じ質問紙に記入を求めた。

子どもの年齢及び発達指数の分布は第1表の通りである。なお、言語発達遅滞児の発達指数の平均値は64.5で

第1表 調査対象児

正常発達児		言語発達遅滞児			
年 令	人数	年 令	人数	発達指数	人数
1:0~1:5	60	2:0~2:5	18	30~	3
1:6~1:11	43	2:6~2:11	23	40~	11
2:0~3:0	37	3:0~3:5	20	50~	21
計	140	3:6~3:11	4	60~	14
		4:0~4:5	7	70~	10
		4:6~4:11	7	80~	5
		計	79	90~	6
				100~	2
				?	6

ある。

III 結果及び考察

1. 正常発達を示す子どもに対する母親の態度

子どもの発達段階により、子どもへの接し方、応待のしかたは変って来るであろうことが予想されるので、子どもの年齢により1歳~1歳5か月(60名) 1歳6か月~1歳11か月(43名) 2歳以上(37名)に区分してその傾向をみた。

第2表-1)にみられるように、子どものことばの発達が早いと感じているものは子どもの成長とともに著しく増加している。逆に、遅れていると感じているものも増えており、発達の個人差が目だって来ることを物語っていて、ふつうであると感じているものが少なくなっている。

-2) 話しかける時はよくわかるように話すことを心がけているというものが多く、年少の時期ほどその傾向が認められる。

-3) 子どもに対しては努めて話しかけているというものよりも自然に接しているというものが多。

-4) ことばをいわせようとして口まねさせることは時々するというものが多いが、成長するに従って減少し口まねさせないというものの割合が増加して来る。

-5) 子どもといっしょに遊んだり話したりすること

-6) 外出した時、子どもの興味をもちそうなものを見つけて話しかけることは共に、多いとするものと、ふつうとするものが相半ばしており、保健指導をうけている母親であるためか、子どもへの関心は高い。この年齢段階では親の接し方には発達による差はみられない。

-7) 家庭内で家族へのごとづけ、手伝いを頼むことは、1歳6か月以後急速に増加しており、子どもの理解

第2表 言語活動に対する親の態度(表中※印は発達による差のみられるもの)

☆第2表の1)から33)まで、いづれも、左から<項目>、年齢階級<1:0~1:5><1:6~1:11><2:0~3:0>の順に、また各年齢階級とも(例数)と(%)を記載した。

1) 現在、お子さんのことばの発達についてどう感じていますか

項目 \ 年齢	1:0~1:5	1:6~1:11	2:0~
発達が早い	7 11.7	12 27.9	※16 43.2
ふつう	48 80.0	26 60.5	14 37.8
おくられている	4 6.7	5 11.5	7 18.9
無記入	1 1.7		

2) 子どもに話しかける時よくわかるように話すことを心がけていますか

心がけている	53 88.3	34 79.1	25 67.5
あまり考えていない	7 11.7	9 20.9	11 29.7
無記入			1 2.7

3) どうせわからないだろうと思って話しかけることが少なくありませんか

努めて話しかけている	21 35.0	16 37.2	6 16.2
自然に接している	34 56.7	26 60.5	30 81.1
話しかけが少ない	4 6.7	1 2.3	1 2.7
無記入	1 1.7		

4) ことばを言わせようとして口まねさせることが多いですか

多い	5 8.3	3 7.0	※1 2.7
時々	47 78.3	31 72.1	21 56.8
させない	8 13.3	8 18.6	15 40.5
無記入		1 2.3	

5) こどもといっしょに遊んだり話したりすることが多いですか

多い	24 40.0	13 30.2	16 43.2
ふつう	33 55.0	30 69.8	21 56.8
少ない	3 5.0		

6) 外出した時、子どもの興味をもちそうなものを見つけて話しかけることが多いですか

多い	28 46.7	24 55.8	21 56.8
ふつう	29 48.3	16 37.2	15 40.5
少ない	3 5.0	3 7.0	1 2.7

7) 家庭内で家族への簡単なことづけやお手伝いを頼むことが多いですか

多い	8 13.3	※16 37.2	14 37.2
ふつう	25 41.7	23 53.5	22 59.5
少ない	22 36.7	4 9.3	1 2.7
無記入	5 8.3		

8) お話を聞かせたり本を読んであげるような相手をよくしますか

すすんです(多い)	14 23.3	14 32.6	12 32.4
子どもの要求があれば	25 41.7	24 55.8	21 56.8
少ない	18 30.0	5 11.6	4 10.8
無記入	3 5.0		

9) いっしょに童謡をうたったり、レコードをきいたりすることが多いですか

多い	18 30.0	15 34.9	11 29.7
ふつう	29 48.3	22 51.2	18 48.6
少ない	12 20.0	6 14.0	8 21.6
無記入	1 1.7		

10) 朝晩のあいさつ、外出、帰宅などに子どもにも声をかけてあげることが多いですか

多い	53 88.3	40 93.0	37 100.0
少ない	6 10.0	3 7.0	
無記入	1 1.7		

11) 子どものやっていることを止めさせる時、なかなか止めない場合はどうしますか

いきかせる	23 38.3	15 34.9	14 37.8
叱る	35 58.3	29 67.4	19 51.4
罰を与える	6 10.0	2 4.7	3 8.1
放っておく	2 3.3	3 7.0	1 2.7
無記入		1 2.7	

12) 子どもが指さしたり、アーアーと要求する時にはどうすることが多いですか

ことばで答えながら応じる	59 98.3	41 95.3	37 100.0
黙って応じる	1 1.7	2 4.7	

13) 子どもが何か言ってもよくわからない時にはどうすることが多いですか

よく聞いてわかってやる……	27 45.0	※30 69.8	24 64.9
あれこれ察してやってやる	32 53.3	12 27.9	11 29.7
とりあわず放っておく	1 1.7	1 2.3	1 2.7
無記入			1 2.7

14) 子どものいうことに面白そうに相槌をうったり関心をもってきいてやりませんか

いつもそうする	31 51.7	24 55.8	24 64.9
暇な時はそうする	27 45.0	19 44.2	13 35.1
無記入	2 3.3		

15) 不完全なことばや、ことばの一部だけを言うような時はどうしますか

理解し、正しいことばで答える	40 66.7	38 88.4	29 78.4
そんな言い方ではわからないという	3 5.0		
注意して言い直させる	3 5.0	5 11.6	7 18.9
無記入	14 23.3		1 2.7

力の発達との関連をうかがうことができる。

—13) 子どもが何かいってもわからない時には、1歳前半ではあれこれ察してやってやる人が多いが、1歳後半以後はよく聞いてわかってやるように努めるという

16) 子どもが話すような幼児音をまねて使いますか

まねて使う	2 3.3	1 2.3	1 2.7
時々まねる	36 60.0	24 55.8	14 37.8
正しい発音で話す	19 31.7	19 44.2	22 59.5
無記入	3 5.0		

17) 幼児語を使ってはいけないと考え、大人に話すようなことばを使いますか

かなり幼児語を使う	16 26.7	12 27.9	5 13.5
時々幼児語を使う	43 71.7	28 65.1	27 73.0
幼児語は使わない	1 1.7	3 7.0	5 13.5

18) 子どもの言うことがたどたどしく待ってられず、先まわりして言うてやる人が多いですか

多い	10 16.7		2 5.4
時々	17 28.3	15 34.9	12 32.4
少ない	13 21.7	17 39.5	17 45.9
ない	16 26.7	10 23.3	6 16.2
無記入	4 6.7	1 2.3	

19) 子どもが人に何か聞かれても、うまく答えられない時はどうすることが多いですか

代って言う	18 30.0	20 46.5	16 43.2
ちゃんと言いなさいと注意	7 11.7	7 16.3	7 18.9
黙って見守る	20 33.3	15 34.9	14 37.8
無記入	15 25.0	1 2.3	

態度が多くなり、子どもの発達により母親の応待のしかたに明らかな差が認められている。

—15) 不完全なことばや、ことばの一部だけをいうような時は、いうことを理解してやり正しいことばで答えるというものが、大部分を占めているが、注意していい直しをさせるといものは少数ではあるが、子どもの発達に伴って多くなる傾向をみせている。

—16) 子どもが話すような幼児音を時々まねるといものが、1歳段階では多いが、発達に従い正しい発音で話すといものが増加している。しかし

—17) のように大部分が幼児語を使っており、幼児語は使わないといものは少数である。

—18) —19) にみられるように、子どものいうことがたどたどしい。人に何か聞かれても、うまく答えられない。などの場合の、親のとの態度には、発達による変化はあまりみられず、どのような態度をとるかは親の性格によるものであろうと思われる。

—20) 発音が不正確でもことばが不十分でも気軽に話すようにしむけるといものが大部分を占めているが、

—23) ことばづかいについてほとんど注意しないといものは極めて少数である。

20) 発音が不正確でも、ことばが不十分でも、気軽に話せる方がよいと思いませんか

気軽に話すようしむける	41	68.3	38	88.4	31	83.8
正確に話すようしむける	12	20.0	3	7.0	6	16.2
無記入	7	11.7	2	4.7		

21) お母さま(子どもによく接する人)は早口ですか

早口	6	10.0	3	7.0	5	13.5
ふつう	54	90.0	40	93.0	32	86.5

22) お母さまは口数が少ない方ですか

よく話す方	4	6.7	※12	27.9	8	21.6
ふつう	51	85.0	29	67.4	27	73.0
無口	5	8.3	2	4.7	2	5.4

23) ことばづかいに気をつけて注意しますか

やかましく注意する	6	10.0	1	2.3	1	2.7
ふつう	34	56.7	35	81.4	34	91.9
ほとんど注意しない	12	20.0	6	14.0	2	5.4
無記入	8	13.3	1	2.3		

24) 子どもが話しかけたり、何か尋ねても、忙しいから後で、などいって相手をしないことが多いですか

多い	6	10.0	2	4.7	5	13.5
少ない	45	75.0	40	93.0	32	86.5
無記入	9	15.0	4	2.3		

25) 子どものすることに制限や禁止をすることが多いですか

多い	9	15.0	4	9.3	5	13.5
ふつう	39	65.0	33	76.7	24	64.9
少ない	12	20.0	6	14.4	8	21.6

26) 子どものすることを賞めたり励ましてやることが多いですか

多い	37	61.7	32	74.4	26	70.3
ふつう	20	33.3	11	25.6	11	29.7
無記入	3	5.0				

27) 子どものすることが危なっかしくて心配で世話をやいたり、手助けすることが多いですか

多い	9	15.0	4	9.3	4	10.8
ふつう	27	45.0	23	53.5	20	54.1
少ない	22	36.7	16	37.2	13	35.1
無記入	2	3.3				

また(33)のことばは特に話しかけてやらなくても、時期がくれば自然に出て来るものだと思っていたというもの、ことばの発達には大人からの話しかけが大切だと考えているものが相半ばしている。大人からの話しかけが

28) 赤ちゃん扱いされることが多いですか

多い	10	16.7	※1	2.3	1	2.7
ふつう	31	51.7	21	48.8	18	48.6
少ない	15	25.0	21	48.8	18	48.6
無記入	4	6.7				

29) 子どもの世話を、わずらわしいと思うことがありますか

思うことがある	34	56.7	28	65.1	23	62.2
思わない	26	43.3	15	34.9	14	37.8

30) 買物、散歩、戸外遊びなどにつれだすことが多いですか

多い	33	55.0	31	72.1	26	70.3
ふつう	24	40.0	11	25.6	11	29.7
少ない	3	5.0	1	2.3		

31) 友だちあそびをよくさせますか

よくさせる	14	23.3	14	32.6	15	40.5
ふつう	26	43.3	16	37.2	6	16.2
少ない	17	28.3	12	27.9	15	40.5
ない	1	1.7	1	2.3	1	2.7
無記入	2	1.7				

32) 子どもがつきまといたがる時にはどうすることが多いですか

都合をつけて相手をする	31	51.7	15	34.9	16	43.2
時には相手をする	27	45.0	28	65.1	21	56.8
相手をしない	1	1.7				
無記入	1	1.7				

33) ことばというものは特に話しかけてやらなくても時期がくれば自然にでて来るものだと思っていましたか

はい	24	40.0	17	39.5	17	45.9
いいえ	33	55.0	22	51.2	20	54.1
考えたことがない	3	5.0	4	9.3		

重要だというのは、子どものことばの発達について親がもつ役割をかなりはっきり意識しているものと考えられるが、時期がくれば自然に出て来ると思うというものの中には、自然に生活していれば特別な言語教育の必要はないというもの、ことばの発達についての親の役割を意識していないものが含まれているようである。

—24) ~—32) にみられるように、子どものことを制限したり禁止したりすることは少なく、賞めたり励ましたりすることが多い。心配で世話をやいたり手助けすること赤ちゃん扱いすることは少ない。買物、散歩、戸外遊びにつれだすことは多く、子どもからの話しかけや要求に対してはよく相手をするなど、全般的に好まし

い関係が保たれている。しかし、反面で-29)のように子どもの世話をわずらわしいと思うことがあるというのが60%前後みられているのは予想外であった。

2. 子どもの出生順位と親の態度

子どもの出生順位、性別などによる親の態度の違いを検討した結果、第1子と2、3子である場合には第3表に示した項目に明らかな差が認められた。すなわち、5)子どもといっしょに遊んだり話したりすること; 6)外出した時に興味をもちそうなものを見つけて話しかけること、話をきかせたり本を読んであげること、など子どもへの働きかけはいずれも第1子の場合に多くなっている。また、第2、3子では19人に何か聞かれてもうまく答えられない時黙って見守るものが多く、ことばの発達は、時期がくれば自然にでてくるものと思っているものが多いなど、子どもへの接し方は、第1子ほど強い関心は示さないが、見方によっては余裕ある態度とも見ることができると。

この他、有意差はみられないが子どもが何かいってもよくわからない時、第2、3子ではよく聞いてわかるように努める、がやや多いのに対し、あれこれ察してやってやるものの割合が第1子に多く、子どものすることに制限、禁止をすることが多いというもの、また、赤ちゃん扱われることは少ないというものも第1子の方に多い傾向がみられている。

性別により比較すると、子どものことばの発達が早い

第3表-1 第1子と第2・3子間の親の態度の差
(年齢段階 1:0~1:5)

5) こどもといっしょに遊んだり話したりすることが多いですか

	第1子 N=39	第2・3子 N=21
多い	20 51.3	4 19.0
ふつう	18 46.2	15 71.4
少ない	1 2.6	2 9.5

6) 外出した時、子どもの興味をもちそうなものを見つけて話しかけることが多いですか

	第1子 N=39	第2・3子 N=21
多い	23 59.0	5 23.8
ふつう	15 38.5	14 66.7
少ない	1 2.6	2 9.5

19) 子どもが人に何か聞かれても、うまく答えられない時はどうすることが多いですか

代って言う	17 43.6	1 4.8
ちゃんと言いなさいと注意	1 2.6	6 28.5
黙ってみまもる	11 28.2	9 42.3
無記入	10 25.6	5 23.8

と感じているものは女子の方にやや多く、年齢がすすむにしたがってこの傾向が現われて来る。

具体的な生活場面での親の態度には、性別による差が認められなかった。しかし、いっしょに童謡をうたったり、レコードを聞いたりすることは女の子の方に多く、子どものいうことがたどたどしくて待ってられず先まわりしてということは男の子の方に多い傾向が、各年齢段階を通して見られた。

3. 正常発達児と言語発達遅滞児の親の態度

さきにも述べたように、言語発達に遅れを生じている子どもに対する場合、不安やあせりのためにもすると

第3表-2 第1子と第2・3子間の親の態度の差
(年齢段階1:6~1:11)

6) 外出した時、子どもの興味をもちそうなものを見つけて話しかけることが多いですか

	第1子 N=27	第2・3子 N=16
多い	19 70.4	5 31.3
ふつう	7 25.9	9 56.3
少ない	1 3.7	2 12.5

8) お話をきかせたり、本を読んであげるような相手をよくしますか

すすんでする(多い)	13 48.1	2 12.5
子どもの要求があれば	11 40.7	12 75.0
少ない	3 11.1	2 12.5

33) ことばというものは特に話しかけてやらなくても時期がくれば自然にでて来るものだと思っていましたか

はい	9 33.3	8 50.0
いいえ	17 63.0	5 31.5
考えたことがない	1 3.7	3 18.8

第3表-3 第1子と第2・3子間の親の態度の差
(年齢段階 2:0~3:0)

8) お話をきかせたり、本を読んであげるような相手をよくしますか

	第1子 N=19	第2・3子 N=18
すすんでする(多い)	9 47.3	3 16.7
子どもの要求があれば	7 36.8	14 77.8
少ない	3 15.8	1 5.6

9) いっしょに童謡をうたったり、レコードを聞いたりすることが多いですか

多い	7 36.8	4 22.2
ふつう	5 26.3	13 72.2
少ない	7 36.8	1 5.6

第4表-1 正常発達児(1:0~1:5)と言語発達遅滞児(2:0~3:0)の親の態度の比較

4) ことばを言わせようとして口まねさせることが多いですか

	N=60		N=41	
	正常発達児	言語発達遅滞児	正常発達児	言語発達遅滞児
多い	5	8.3	27	65.3
時々	47	78.3	3	7.3
少ない	8	13.3	9	22.0
無記入			2	4.9

5) こどもといっしょに遊んだり話したりすることが多いですか

多い	24	40.0	8	19.5
ふつう	33	55.0	27	65.9
少ない	3	5.0	5	12.2
無記入			1	2.4

9) いっしょに童謡をうたったり、レコードをきいたりすることが多いですか

多い	18	30.0	6	14.6
ふつう	29	48.3	18	43.9
少ない	12	20.0	17	41.5
無記入	1	1.7		

10) 朝晩のあいさつ、外出、帰宅などに子どもにも声をかけてあげることが多いですか

多い	53	88.3	25	61.0
少ない	6	10.0	15	36.6
無記入	1	1.7	1	2.4

16) 子どもが話すような、幼児音をまねて使いますか

まねて使う	2	3.3	4	9.8
時々まねる	36	60.0	16	39.0
正しい発音で話す	19	31.7	13	31.7
無記入	3	5.0	8	19.5

いわせようとする無理な働きかけが多くなったり、逆にどうせわからないからと子どもの言語活動の機会を阻んでしまうような傾向が見られることは、日頃母親との面接で経験的に感じている。ここでは具体的場面での親の態度にどのような差があるかを検討した。

まず、言語発達遅滞児を3歳未満と3歳以上に区分し年齢により親の接し方を比較したが、いずれの項目も差が認められなかった。(この2グループ間の発達指数の分布には大きな差はみられない。)

正常児の場合は、子どもの発達により親の接し方に変化がみられるものが数項目認められたが、言語発達遅滞児の場合にはこの変化がみられない。これは子どもの言

18) 子どもの言うことがただどしくて待ってられず先まわりして言ってやるが多いですか

多い	10	16.7	10	24.4
時々	17	28.3	13	31.7
少ない	13	21.7	7	17.1
無記入	16	26.7	2	4.9
	4	6.7	9	22.0

21) お母さん(子どもとよく接する人)は早口ですか

早口	6	10.0	12	29.3
ふつう	54	90.0	29	70.7

28) 赤ちゃん扱いされることが多いですか

多い	10	16.7	15	36.6
ふつう	31	51.7	14	34.1
少ない	15	25.0	10	24.4
無記入	4	6.7	2	4.9

29) こどもの世話をわずらわしいと思うことがありますか

思うことがある	34	56.7	14	34.1
思わない	26	43.3	24	58.5
無記入			3	7.3

語活動のレベルにあまり変化がみられないということにも起因すると思われるが、子どもの生活全般に対する親の態度の違いがあるためであろうと考えられる。

次に、正常発達児と言語発達遅滞児に対する親の態度を比較した。子どもの発達年齢を揃えるために、正常発達を示す1:0~1:5段階の子どもと言語発達遅滞の2:0~3:0段階の子どもを、正常発達の1:6~1:11段階の子どもと言語発達遅滞の3:0~4:0の子どもとをそれぞれ比較した。

第4表1~2がこの両者間で差のみられる項目であるが、第4表-1よりも第4表-2の方に差のみられる項目が多くなっている。いいかえれば、同じような発達段階であっても子どもの年齢が長ずるにしたがって、正常発達児と言語発達遅滞児に対する親の態度の違いが目だって来ると考えられる。

また、この表から読みとれることは、言語発達遅滞児に対する場合は、ことばそのものに注目して、口まねさせる、注意していい直しをさせる、幼児音や幼児語は使わない、などが正常発達児の親に比べて多いのに対し、子どもの興味をもちそうなものをみつけて話しかける、家庭内で簡単なことづけや手伝いを頼む、本をよんだり話をきかせる、童謡をうたったりレコードをきく、子どものすることを賞めたり励ましたりする、散歩や外遊びにつれ出すなどの機会が少ない。また、子どもからの働

第4表-2 正常発達児(1:6~1:11)と言語発達遅滞児(3:0~4:0)の親の態度の比較

4) ことばを言わせようとして口まねさせることが多いですか

	N=43		N=38	
	正常発達児		言語発達遅滞児	
多い	3	7.0	19	50.0
時々	31	72.1	4	10.5
しない	8	18.6	12	31.6
無記入	1	2.3	3	7.9

6) 外出した時子どもの興味をもちそうなものを見つけて話しかけることが多いですか

多い	24	55.8	11	28.9
ふつう	16	37.2	21	55.3
少ない	3	7.0	6	15.8

7) 家庭内で家族への簡単なことづけやお手伝いを頼むことが多いですか

多い	16	37.2	9	23.7
ふつう	23	53.5	16	42.1
少ない	4	9.3	13	34.2

8) お話を聞かせたり、本を読んであげるような相手をよくしますか

すすんでする(多い)	14	32.6	4	10.5
子どもの要求があれば	24	55.8	24	63.2
少ない	5	11.6	9	23.7
無記入			1	2.5

9) いっしょに童謡をうたったりレコードをきいたりすることが多いですか

多い	15	34.9	9	23.7
ふつう	22	51.2	16	42.1
少ない	6	14.0	13	34.2

10) 朝晩のあいさつ、外出、帰宅など子どもにも声をかけてやる人が多いですか

多い	40	93.0	23	60.5
少ない	3	7.0	14	36.8
無記入			1	2.6

11) 子どもがやっていることを止めさせる時、なかなか止めない場合どうしますか

いいきかせる	15	34.9	5	13.2
叱る	29	67.4	28	73.7
罰を与える	2	4.7	1	2.6
放っておく	3	7.0	5	13.2
無記入			1	2.6

12) 子どもが指さしたりアアアと要求する時にはどうすることが多いですか

ことばで答えながら応じる	41	95.3	27	71.1
黙って応じる	2	4.7	8	21.1
放っておく			2	5.3
無記入			2	5.3

13) 子どもが何かいってもよくわからない時にはどうすることが多いですか

よく聞いてわかってやる	30	69.8	14	36.8
あれこれ察してやる	12	27.9	21	55.3
とりあわずに放っておく	1	2.3	1	2.6
無記入			2	5.3

15) 不完全なことばやことばの一部だけ言うような時はどうしますか

理解し、正しいことばで答える	38	88.4	25	65.8
そんな言い方ではわからないという注意して言い直させる	5	11.6	4	10.5
無記入			7	18.4
			2	5.3

16) 子どもが話すような幼児音をまねて使いますか

まねて使う	1	2.3	4	10.5
時々まねる	24	55.8	3	7.9
正しい発音で話す	19	44.2	26	58.4
無記入			5	13.2

17) 幼児語を使ってはいけないと考え、大人に話すようなことばを使いますか

かなり幼児語を使う	12	27.9	9	23.7
時々幼児語を使う	28	65.1	18	47.4
幼児語は使わない	3	7.0	11	28.9

18) 子どもの言うことがたどたどしくて待っていられず先まわりして言ってしまうことが多いですか

多い			9	23.7
時々	15	34.9	17	44.7
少ない	17	39.5	2	5.3
ない	10	23.3	3	7.9
無記入	1	2.3	7	18.4

24) 子どもが話しかけたり、何か尋ねても忙しいから後でなどといって相手をしないことが多いですか

多い	2	4.7	11	28.9
少ない	40	93.0	23	60.5
無記入	1	2.3	4	10.5

26) 子どものすることを賞めたり、励ましてやることが多いですか

多 い	32	74.4	19	50.0
ふ つ う	11	25.6	19	50.0

27) 子どものすることが危なっかしくて心配で世話やいたり手助けすることが多いですか

多 い	4	9.3	14	36.8
ふ つ う	23	53.5	16	42.1
少 ない	16	37.2	8	21.1

30) 買物、散歩、戸外遊びなどにつれだすことが多いですか

多 い	31	72.1	18	47.4
ふ つ う	11	25.6	19	50.0
少 ない	1	2.3	1	2.6

きかけによく聞いて分かってやろうとする態度が少なく、あれこれ察してやってやり、忙しいからと相手にしないこと、赤ちゃん扱いされること、心配で世話をやいたり手助けすることなどが多くなっている。

IV 要 約

正常発達を示している1歳～3歳までの子どもの言語活動に対する親の態度を調べ、一般的傾向を把握するとともに、発達による態度の変化をみようとした。

一方、言語発達遅滞を示す2歳～4歳の子どもの対する親の態度を調べ、正常発達児に対する親の態度と比較することにより、言語発達における好ましい態度を考え

ようとした。

正常発達を示す子どもに対する場合は、子どもの発達に伴い親からの働きかけや応待のし方に次のような傾向がみられた。

年少時ほどよくわかるように話すことを心がけているものが多い。

ことばを口うつしにまねさせることは、成長するにしたがって減少する。

1歳6か月以後、家族へのことづけ、手伝いに参加させることが多くなり、子どものいうことがわからない時は、あれこれ察してやってやる態度からよく聞いてわかってやるように努める態度へ変っていく。

子どもの成長に伴って親も正しい発音で話すものが増加しているが、この年齢段階で幼児語を使わないというものは少数である。

1歳6か月以後、赤ちゃん扱いされることは少なくなり、友だち遊びの機会は成長とともに増加しているが、一方友だち遊びの機会が少ないというものも多くなっている。

また、言語発達遅滞児に対する場合、生活全般にわたり子どもへの働きかけが少ない反面、ことばそのものに注目しての働きかけはむしろ多くなっている。正常発達を示している子どもに対する態度では、生活全般にわたっての働きかけが多く、子どもが活動する機会を与え、子どもからの働きかけに対しては応答のある環境を作っており、かなり対称的であり、子どもの年齢が長ずるにしたがって親の態度の差が目立って来ていた。